

鳥インフルエンザ関係府省庁連絡会議

日 時：令和7年1月12日（日）

議 題：愛知県常滑市及び千葉県銚子市の家きんにおける
鳥インフルエンザの疑似患畜の発生について

(鳥インフルエンザ事案)

総理指示

- 鳥インフルエンザと考えられる家きんが確認された場合、農林水産省はじめ関係各省が緊密に連携し、徹底した防疫措置を迅速に進めること。
- 現場の情報をしっかり収集すること。
- 家きん業者に対し、厳重な警戒を要請するとともに、予防措置について適切な指導・支援を行うこと。
- 国民に対して正確な情報を迅速に伝えること。

鳥インフルエンザの発生状況について

令和7年1月12日

農林水産省

消費・安全局動物衛生課

1	高病原性鳥インフルエンザとは	2
2	今シーズンの発生事例・防疫措置の進捗状況	3
3	今シーズンの発生状況	7
4	過去シーズンとの発生状況の比較	8
5	総理指示（令和6年10月16日）を受けた対応	9
6	発生予防・まん延防止対策	10
7	江藤農林水産大臣メッセージ <small>（令和6年11月21日・緊急全国会議/令和7年1月7日・農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部）</small>	11
8	生産現場の対策強化	13
9	発生時における政府一体となった対応	14
10	過去の発生事例	15
11	世界における発生・感染報告状況	16
12	輸出への影響	17

1 高病原性鳥インフルエンザとは

■ 原因（病原体）

- 国際獣疫事務局（WOAH）が作成した診断基準により高病原性鳥インフルエンザウイルスと判定された A 型インフルエンザウイルス



元気消失

■ 対象家きん

- 鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥 及び七面鳥

■ 症状・特徴

- 元気消失、食餌や飲水量の減少、産卵率の低下、顔の腫れ、トサカや脚の変色(紫色)、咳、鼻水、下痢。
- 急性例ではこれらの症状を認めず、急死する場合もある。

※人獣共通感染症：

海外では、家きん等との密接接触に起因する高病原性鳥インフルエンザウイルスの人の感染及び死亡事例も報告。

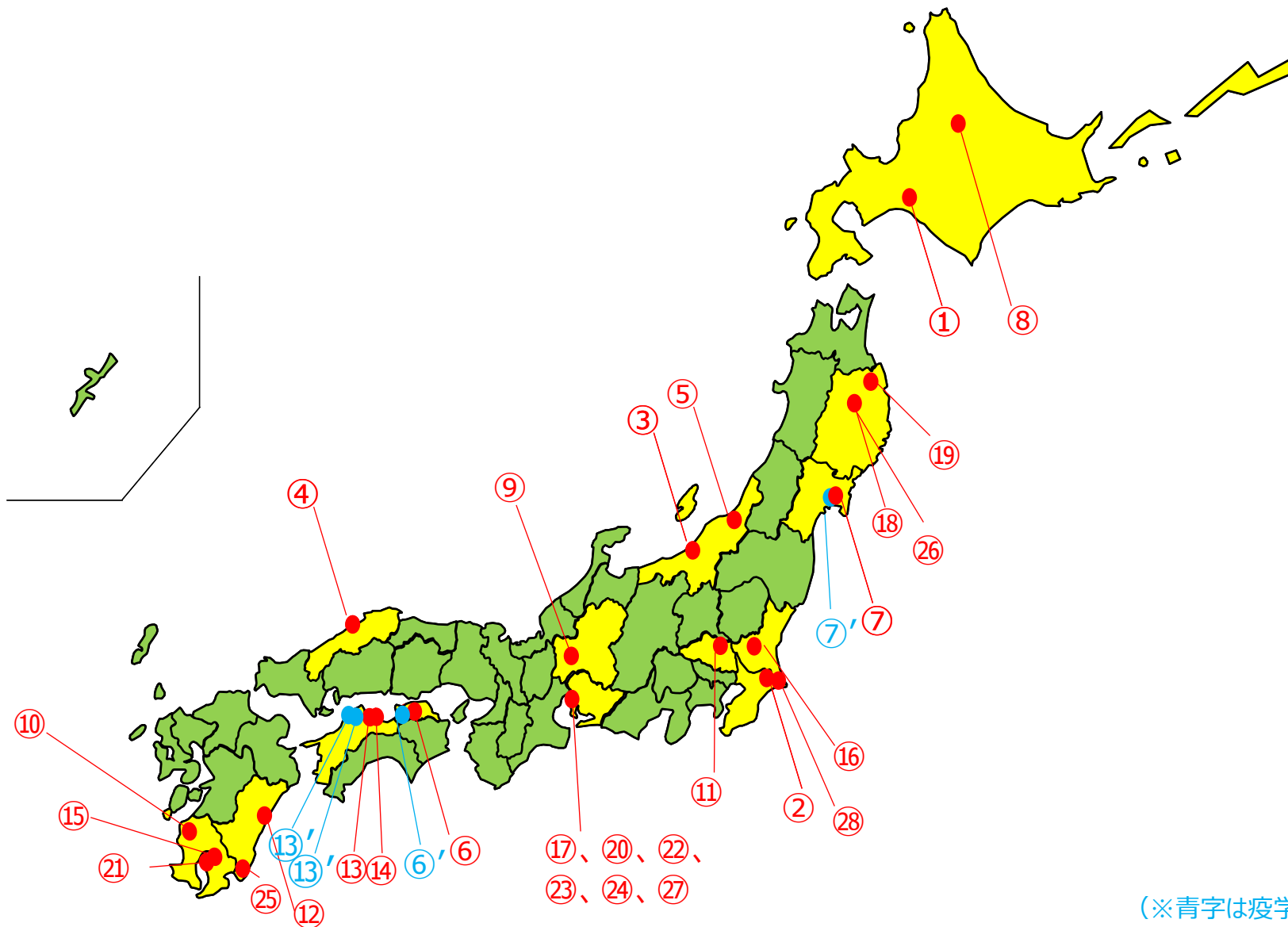
■ 発生状況

- 渡り鳥により国内に持ち込まれることが多く、冬期に発生しやすい。我が国において、直近では、平成 26、28、29、令和 2、3、4、5、6 年度に発生。

※内閣府食品安全委員会によると、「我が国の現状においては、鶏肉や鶏卵を食べることにより、鳥インフルエンザがヒトに感染する可能性はないと考える」としている。

2 今シーズンの発生事例・防疫措置の進捗状況 ①

○ 今シーズンは、令和6年10月17日に国内1例目が確認されて以来、
令和7年1月12日14時00分時点で14道県28事例発生し、約447万羽が殺処分の対象となっている。



(※青字は疫学関連農場)

2 今シーズンの発生事例・防疫措置の進捗状況 ②

○ 今シーズンは、令和6年10月17日に国内1例目が確認されて以来、
令和7年1月12日14時00分時点で14道県28事例発生し、約447万羽が殺処分の対象となっている。

事例数：28事例（防疫措置対象：農場 32施設 約447万羽）				農林水産省 対策本部	防疫対応状況				
発生場所		発生日 ※1	飼養羽数 ※2、3		防疫措置（殺処分、消毒等）		搬出制限区域 解除	移動制限区域 解除	
					開始	完了			
①	北海道1	養鶏場 (北海道厚真町)	令和6年 10月17日	約2.0万羽 (肉用鶏・平飼い)	10月17日	10月17日 10時00分	10月20日 18時00分	11月1日 0時00分	11月11日 0時00分
②	千葉1	養鶏場 (千葉県香取市)	令和6年 10月23日	約3.7万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	10月23日 (持ち回り)	10月23日 8時00分	10月24日 18時00分	11月5日 0時00分	11月15日 0時00分
③	新潟1	養鶏場 (新潟県上越市)	令和6年 10月26日	188羽 (採卵鶏・平飼い)	10月26日 (持ち回り)	10月26日 10時00分	10月26日 15時00分	11月7日 0時00分	11月17日 0時00分
④	島根1	養鶏場 (島根県大田市)	令和6年 10月31日	約40.2万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	10月31日 (持ち回り)	10月31日 4時30分	11月10日 9時15分	11月21日 0時00分	12月2日 0時00分
⑤	新潟2	養鶏場 (新潟県胎内市)	令和6年 11月6日	約33.7万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	11月6日 (持ち回り)	11月6日 8時00分	11月12日 17時00分	11月24日 0時00分	12月4日 0時00分
⑥	香川1	養鶏場 (香川県三豊市)	令和6年 11月7日	約4.3万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	11月7日 (持ち回り)	11月7日 22時00分	11月12日 15時00分	11月24日 0時00分	12月4日 0時00分
⑥'	香川1	養鶏場 (香川県観音寺市)		約2.8万羽 (採卵鶏)					
⑦	宮城1	養鶏場 (宮城県石巻市)	令和6年 11月10日	約12.3万羽 (肉用鶏・平飼い)	11月10日 (持ち回り)	11月10日 11時00分	11月16日 17時00分	11月28日 0時00分	12月8日 0時00分
⑦'	宮城1	養鶏場 (宮城県石巻市)		約4.8万羽 (肉用鶏)					
⑧	北海道2	養鶏場 (北海道旭川市)	令和6年 11月12日	約4.4万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	11月12日 (持ち回り)	11月12日 1時00分	11月16日 13時00分	11月28日 0時00分	12月8日 0時00分
⑨	岐阜1	養鶏場 (岐阜県本巣市)	令和6年 11月19日	約1.5万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	11月19日 (持ち回り)	11月19日 8時30分	11月22日 10時20分	12月4日 0時00分	12月14日 0時00分
⑩	鹿児島1	養鶏場 (鹿児島県出水市)	令和6年 11月20日	約11.3万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	11月20日 (持ち回り)	11月20日 7時00分	11月25日 12時00分	12月6日 12時00分	12月17日 0時00分
⑪	埼玉1	家きん農場 (埼玉県行田市)	令和6年 11月25日	2,528羽 (あひる(肉用)・平飼い)	11月25日 (持ち回り)	11月25日 8時00分	11月26日 10時00分	12月8日 0時00分	12月18日 0時00分
⑫	宮崎1	養鶏場 (宮崎県川南町)	令和6年 12月3日	約2.7万羽 (肉用鶏・平飼い)	12月3日 (持ち回り)	12月3日 7時00分	12月4日 14時00分	12月15日 14時00分	12月26日 0時00分

※1 疑似患畜と確認した日 ※2 飼養方法は主として疫学調査結果から引用。ただし、疫学関連農場については疫学調査を実施していないため飼養方法は記載せず。※3 飼養羽数は殺処分が完了するまでは、疑似患畜確認時の羽数を記載。

2 今シーズンの発生事例・防疫措置の進捗状況 ③

○ 今シーズンは、令和6年10月17日に国内1例目が確認されて以来、
令和7年1月12日14時00分時点で14道県28事例発生し、約447万羽が殺処分の対象となっている。

事例数：28事例（防疫措置対象：農場 32施設 約447万羽）				農林水産省 対策本部	防疫対応状況				
発生場所		発生日 ※1	飼養羽数 ※2、3		防疫措置（殺処分、消毒等）		搬出制限区域 解除	移動制限区域 解除	
					開始	完了			
⑬	愛媛1	養鶏場 (愛媛県西条市)	令和6年 12月10日	約15.0万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	12月10日 (持ち回り)	12月10日 8時00分	12月20日 20時00分	1月6日 6時00分	-
⑬'	愛媛1	養鶏場 (愛媛県西条市)		約8.6万羽 (採卵鶏)				1月6日 6時00分	-
⑬'	愛媛1	養鶏場 (愛媛県今治市)		20羽 (採卵鶏)				1月6日 6時00分	-
⑭	愛媛2	養鶏場 (愛媛県西条市)	令和6年 12月19日	約11.0万羽 (採卵鶏・ケージ、平飼い)	12月19日 (持ち回り)	12月19日 9時00分	12月26日 9時00分	1月6日 6時00分	-
⑮	鹿児島2	養鶏場 (鹿児島県霧島市)	令和6年 12月20日	約9.0万羽 (肉用鶏・平飼い)	12月20日 (持ち回り)	12月20日 10時00分	12月23日 18時00分	1月3日 12時00分	-
⑯	茨城1	養鶏場 (茨城県八千代町)	令和6年 12月29日	約107.9万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	12月29日 (持ち回り)	12月29日 12時00分	-	-	-
⑰	愛知1	養鶏場 (愛知県常滑市)	令和7年 1月2日	約14.4万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	1月2日 (持ち回り)	1月2日 8時00分	-	-	-
⑱	岩手1	養鶏場 (岩手県盛岡市)	令和7年 1月2日	約12.0万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	1月2日 (持ち回り)	1月2日 9時00分	1月6日 18時00分	-	-
⑲	岩手2	養鶏場 (岩手県軽米町)	令和7年 1月5日	約4.8万羽 (肉用鶏・平飼い)	1月5日 (持ち回り)	1月5日 9時00分	1月7日 21時00分	-	-
⑳	愛知2	養鶏場 (愛知県常滑市)	令和7年 1月6日	約12.3万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	1月6日 (持ち回り)	1月6日 8時00分	-	-	-
㉑	鹿児島3	養鶏場 (鹿児島県霧島市)	令和7年 1月7日	約12.0万羽 (肉用鶏・平飼い)	1月7日 (持ち回り)	1月7日 9時00分	1月9日 16時00分	-	-
㉒	愛知3	養鶏場 (愛知県常滑市)	令和7年 1月9日	約12.9万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	1月9日 (持ち回り)	1月9日 21時00分	-	-	-
㉓	愛知4	養鶏場 (愛知県常滑市)	令和7年 1月10日	約5.7万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	1月10日	1月10日 9時40分	-	-	-
㉔	愛知5	養鶏場 (愛知県常滑市)	令和7年 1月10日	約12.0万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	1月10日	1月10日 9時40分	-	-	-

※1 疑似患畜と確認した日 ※2 飼養方法は主として疫学調査結果から引用。ただし、疫学関連農場については疫学調査を実施していないため飼養方法は記載せず。※3 飼養羽数は殺処分が完了するまでは、疑似患畜確認時の羽数を記載。

2 今シーズンの発生事例・防疫措置の進捗状況 ④

○ 今シーズンは、令和6年10月17日に国内1例目が確認されて以来、
令和7年1月12日14時00分時点で14道県28事例発生し、約447万羽が殺処分の対象となっている。

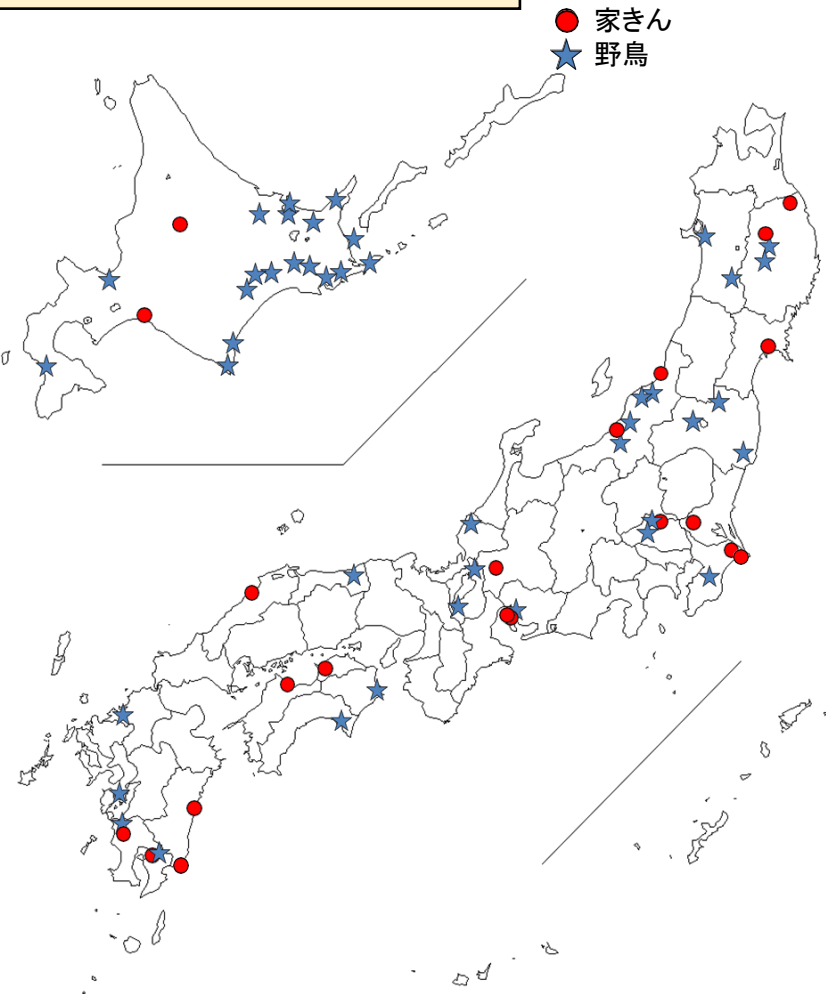
事例数：28事例（防疫措置対象：農場 32施設 約447万羽）					農林水産省 対策本部	防疫対応状況			
発生場所		発生日 ※1	飼養羽数 ※2、3	農林水産省 対策本部		防疫措置（殺処分、消毒等）		搬出制限区域 解除	移動制限区域 解除
						開始	完了		
㊸	宮崎 2	養鶏場 (宮崎県串間市)	令和7年 1月11日	約3.0万羽 (肉用鶏・平飼い)	1月11日 (持ち回り)	1月11日 7時00分	-	-	-
㊹	岩手 3	養鶏場 (岩手県盛岡市)	令和7年 1月11日	約40.0万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	1月11日 (持ち回り)	1月11日 9時00分	-	-	-
㊺	愛知 6	養鶏場 (愛知県常滑市)	令和7年 1月11日	約1.7万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	1月11日 (持ち回り)	1月11日 22時00分	-	-	-
㊻	千葉 2	養鶏場 (千葉県銚子市)	令和7年 1月12日	約41.0万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	1月12日 (持ち回り)	1月12日 14時00分	-	-	-

※1 疑似患畜と確認した日 ※2 飼養方法は主として疫学調査結果から引用。ただし、疫学関連農場については疫学調査を実施していないため飼養方法は記載せず。※3 飼養羽数は殺処分が完了するまでは、疑似患畜確認時の羽数を記載。

3 今シーズンの発生状況 (令和7年1月12日14時00分時点)

- 今シーズンの初動は、家きんでは過去最大の発生となった令和4年シーズンに匹敵するペースで発生。
1月はまさにトップシーズンであり、全国どこで起きてもおかしくない状況。
- 対策の基本は、飼養衛生管理の遵守徹底。

令和6年シーズンの発生状況



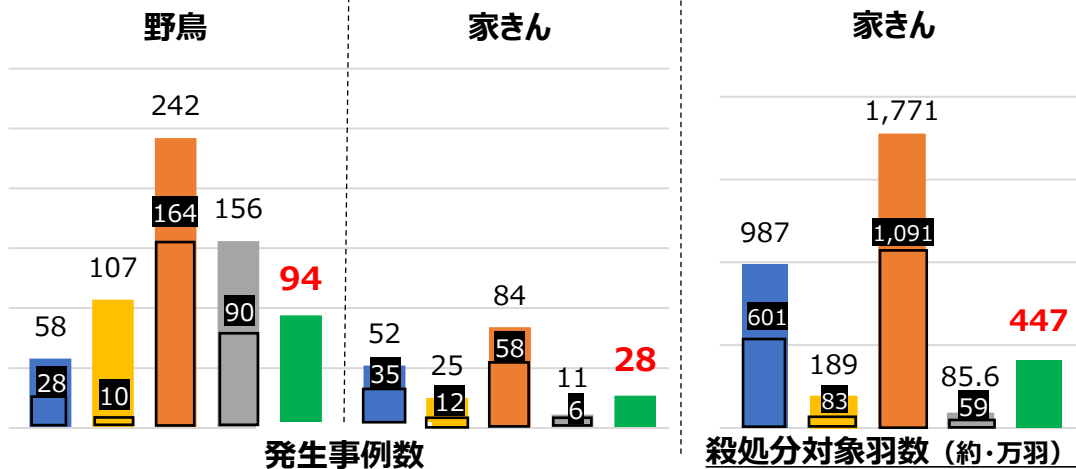
過去シーズンとの比較

(1) 初発、最終確認日

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
野鳥	初発	10月24日	11月8日	9月25日	10月4日	9月30日
	最終確認	3月3日	5月14日	4月19日	4月30日	
家きん	初発	11月5日	11月10日	10月28日	11月25日	10月17日
	最終確認	3月13日	5月14日	4月7日	4月29日	

(2) 発生事例数 (野鳥、家きん)、殺処分対象羽数 (自抜きは同日比)

■ : R2年度 ■ : R3年度 ■ : R4年度 ■ : R5年度 ■ : R6年度

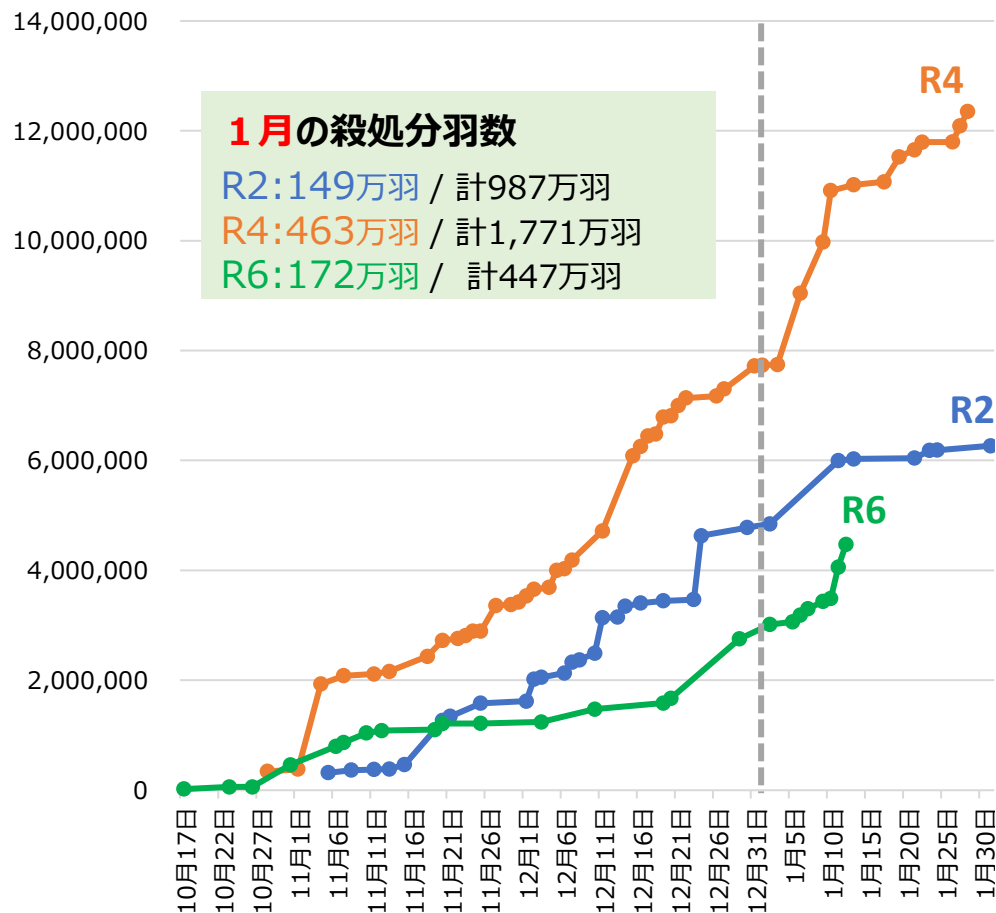


(注) 野鳥における発生事例数は環境省HP参照

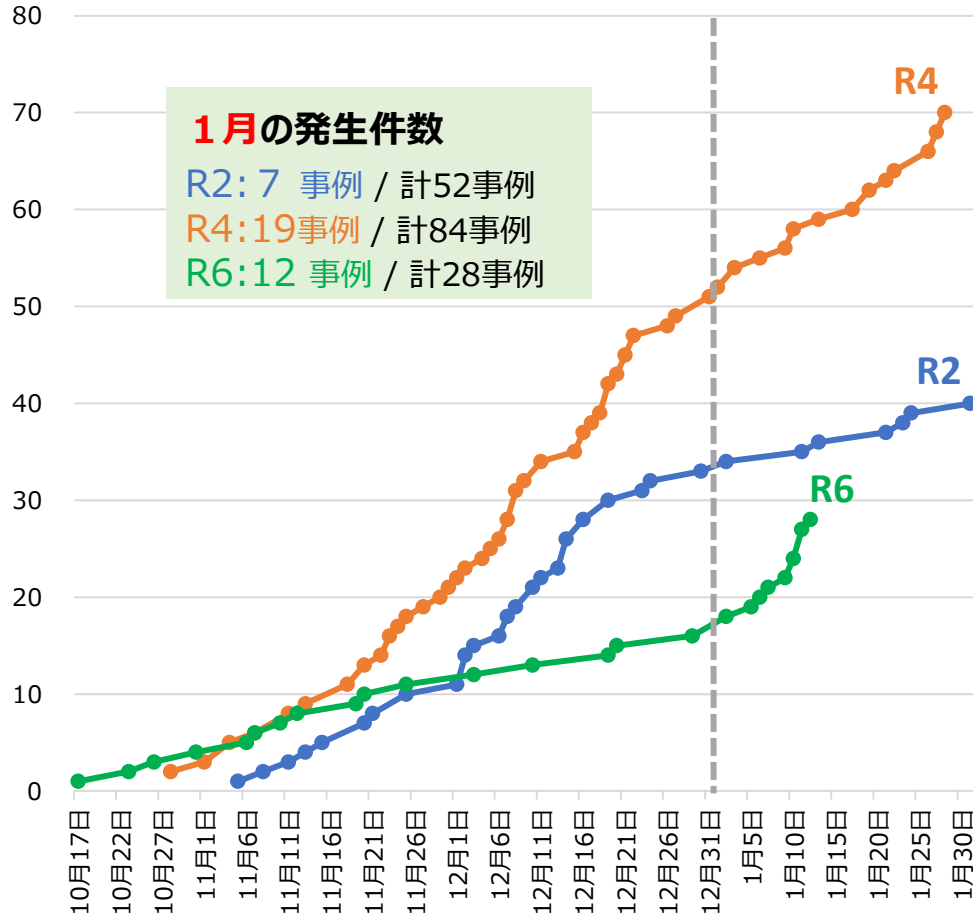
4 過去シーズンとの発生状況の比較 (令和7年1月12日14時00分時点)

- **今シーズンの発生件数** (令和7年1月12日14時00分時点で14道県28事例発生) は、過去最多の発生となった**令和4年シーズン** (同日時点で23道県58事例発生) に比べ、**半分弱**にとどまっている。
- 他方、この年末年始には、**100万羽を超える大規模農場を含め、発生が相次いだ。**
- **令和4年シーズン**では、累計殺処分数1,771万羽のうち463万羽が1月に殺処分されており、**1月はまさにトップシーズン**。今シーズンも、これ以上発生が広がらないよう、**関係者一丸となった更なる警戒と対策の徹底強化が必要**。

殺処分羽数の推移



発生件数の推移



5 総理指示（令和6年10月16日）を受けた対応

<総理指示>（10月16日23時42分）

- ① 鳥インフルエンザと考えられる家きんが確認された場合、農林水産省はじめ関係各省が緊密に連携し、徹底した防疫措置を迅速に進めること。
- ② 現場の情報をしっかり収集すること。
- ③ 家きん業者に対し、厳重な警戒を要請するとともに、予防措置について適切な指導・支援を行うこと。
- ④ 国民に対して正確な情報を迅速に伝えること。

<対応>

- ① 関係省庁（※）と連携し、都道府県が実施する防疫措置（当該農場の飼養家きんの殺処分及び焼埋却、移動制限区域・搬出制限区域の設定、消毒ポイントの設置等）について、職員の派遣等、必要に応じた支援を実施。（また、環境省において発生農場周辺半径10kmを「野鳥監視重点区域」に指定し、県に野鳥の監視を強化するよう要請。）
- ② 農林水産省政務による都道府県知事との意見交換を実施するとともに、疫学、野鳥等の専門家からなる疫学調査チームを派遣。
- ③ 全都道府県に対し、鳥インフルエンザの早期発見及び早期通報並びに飼養衛生管理の徹底を改めて通知し、家きん農場における監視体制の強化を実施。併せて、経営支援対策を周知。
- ④ 消費者、流通業者、製造業者等に対し、鳥インフルエンザに関する正しい知識の普及等（鶏肉・鶏卵の安全性の周知、発生県産の鶏肉・鶏卵の適切な取扱いの呼び掛け等）を実施。

（※）関係各省：消費者庁、警察庁、総務省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省、環境省及び防衛省

6 発生予防・まん延防止対策

○ 引き続き、発生時の防疫措置に備えて万全を期すことができるよう都道府県等と連携するとともに、**発生予防対策の強化、発生時の速やかな対応、発生農場の家きんの再導入に向けた指導**に取り組んでいるところ。

1 農場や地域一体となった発生予防対策の強化

- **令和5年シーズンの疫学調査、調査研究で得られた知見**を現場での発生予防対策に活用。
 - ・ 第三者の視点による、**飼養衛生管理基準の遵守状況の正しい評価・理解**
 - ・ 過去に発生のある農場・地域において発生リスクが高くなることを念頭に置いた農場での警戒及び地域的な対策の徹底
 - ・ 地域一体となった**農場周辺地域におけるカラス等の野鳥や猫・イタチ等の小動物の誘引防止対策**
 - ・ **野鳥における鳥インフルエンザ感染状況の監視と警戒の呼びかけ**

2 発生時の速やかな対応

- **関係省庁と連携した迅速な防疫措置**（通行制限・遮断、円滑な消毒ポイントの設置、防疫作業従事者の健康管理、大規模農場での発生に伴い災害派遣要請があった際の自衛隊との連携）
- 農場ごとに行う全羽殺処分の羽数を低減させるため、**農場の分割管理を活用**。マニュアルを基に各農場の実態に即した指導。

3 発生農場の家きんの再導入に向けた指導

- 発生農場が早期に家きんを再導入できるよう、**埋却地・焼却施設の確保**や**飼養衛生管理の指導**を実施。
 - ・ **飼養衛生管理基準の定期報告のタイミング**を活用し、飼養衛生管理基準の遵守徹底を図るとともに、特に埋却地や焼却施設の事前確保を指導。
 - ・ 大規模農場においては、事前に策定する対応計画について農場自ら防疫措置に協力することを推進。

7 江藤農林水産大臣メッセージ① (令和6年11月21日・緊急全国会議)



全国から500名を超える方々に御参加をいただきまして、誠にありがとうございます。
過去最多の発生令和4年シーズンと匹敵するペースで、今、発生をいたしております。
私の県でも本当に大変な経験をいたしておりますので、
皆様方には更に緊張感を持っていただきたいという趣旨をもって、
この会を開催させていただきました。

それでは、私の方から4点に絞りまして、お話をさせていただきます。

まず、「危機感」を共有せねばなりません。

今シーズンは「自分のところに来ても全くおかしくない」「来るぞ」という覚悟をもって、体制を組んでいただきたいと思っております。自分のところには来ないだろうという楽観的な気持ち、これが一番問題になりますので、来ていつでも対応できる体制を組んでいただきたいと思っております。関係者の皆様方で危機感を共有して、できる限りの体制の準備をしていただくことをお願いいたします。

第二に、現場の「隙間」を埋める、「隙」を埋めるということでありまして、これまでの発生農場の経験を生かしまして、飼養衛生管理のレベルをもう一段上げることが肝要であります。万全かと思われる農場でも「ここにも来るかもしれない」と、見逃しがちな「隙」があるということでありまして。そこからウイルスの侵入を許してしまいますので、農場の「隙」を埋めるよう、御指導のほどよろしくお願いいたします。

第三に、「再点検」です。「自分のところは新しいから、作って間もないから、最近検査したばかりだから大丈夫だろう」ということではなくて、今日この機を生かしていただいて、もう一度再点検をお願いしたいと思っております。特に大規模農場や過去に発生した農場では、発生した場合の影響や発生リスクが高いというふうに考えられますので、もう一度、よろしくお願いいたします。何度点検をしても、それで十分ということはないというふうに考えていただきたいと思っております。

第四に、残念ながら発生した場合、そこから更に周りに伝播させない、拡げないということが大変肝要であります。現実には、どんなに完璧な防疫体制を敷いていても、人間のやることでありまして、それに虫や動物、様々な原因が考えられますから、完全に防ぐということは不可能だというふうに考えていただくことが、私は適切ではないかと思っております。そして、発生しても、今申し上げたように、1か所で止める、そこで終了する—その地区ではですね。地域に拡げないことが最重要であります。事前の防疫演習、これはしていただいていると思っておりますが、速やかな殺処分、そして防疫措置をお願いしたいと思います。

令和4年シーズンのように鳥インフルエンザが大発生すれば、卵の需給や価格、国民の皆様方の食卓にも大変な影響を及ぼすことがあります。そして、発生農場におきましても、それから再開するのに大変御苦労することになりますから、そのあたり緊張感を持っていただいて、「防疫対策」、何度も申し上げましたけれども、とにかく「防疫対策」「防疫対策の徹底」これをお願い申し上げます。

どうぞ皆様方、これからがまさにトップシーズンに入りますから、緊張感を持って御対応いただきますように、重ねてお願い申し上げます。御参加いただきまして、誠にありがとうございます。

7 江藤農林水産大臣メッセージ② (令和7年1月7日・農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部)



昨年間は、決して良好とは言えませんが、比較的全国の皆様方の御努力によって、鳥インフルエンザの発生を抑えられていたと受け止めています。

しかし、全体では21件（の発生）になりました。100万羽を超える大規模な農場でも発生しています。そして、今年に入ってまだ日が浅いですが、既に5件（発生し）、合計では21件発生しています。

（昨年）11月に緊急全国会議を開かせていただいて、皆様に真剣に議論いただきました。

皆様方も今までにない防疫体制を敷いてくださっていたと聞いております。

しかし、そうでありながら、**早期通報が出来なかった農場が残念ながら見られます。**「違うのではないか、鳥インフルエンザではないのではないか。」そう思いたい気持ちも分からないでもない。自分のところで発生すれば、移動制限が敷かれて周りの農場にも御迷惑をかける。躊躇する気持ちも分かりますが、しかし、**早期に通報することが、最終的には被害の拡大を防ぐ一番の方法であります。**何度も申し上げますが、どんなに努力をしても人間の努力には限界があり、（ウイルスが）入ってしまうときは入ってしまう。しかしそれは、自分を責める気持ちもあるかもしれませんが、そういう気持ちをお持ちになるよりも、**怪しいと思ったら、間違いでもいいから通報し、検査を受けていただく。これがこの養鶏業界を守る一番の道だと思っております。**

年始に当たって、皆様方にこのような会を持たせていただいたのは、懸命に御努力をいただいて、それぞれの都道府県でも市町村でも、家畜伝染病予防法に基づく演習を含めて懸命な努力をしているにも関わらず発生しているということは、それほど鳥インフルエンザが全国に拡散する可能性を秘めているということだと思います。ぜひ、消費者の方々におかれましても、大変なまん延拡大になれば、卵価や鶏肉の値段も上がるかもしれません。それは消費者の皆様にとっても由々しき問題でありますので、先ずは農林水産省が一番のヘッドクォーターですから、**もう一度緊張感を持ち直して**、それからそれぞれの地方農政局の皆様方も、それぞれ部下の皆様をしっかりと督促していただいて、これ以上増えないように、発生をゼロにすることは限りなく不可能かもしれませんが、できる限りゼロに近づける努力をして、**まさに今トップシーズンですから、緊張感を持っていただきたい**と思ひ、このような席を設けさせていただいた次第です。

農政局の皆様方、消費・安全局、それから事務次官以下職員一同、緊張感をもってこの事態が深刻にならないよう御努力いただきますことを、よろしくお願いいたします。

私からは以上です。

8 生産現場の対策強化

- 関係者が**危機感を共有し防疫対策の再徹底**を図るため、**昨年11月21日**、江藤農林水産大臣出席の下で**緊急全国会議を開催し、4点に亘る対策強化のポイント**を重点的に打ち出し。
- 全国会議後の発生状況も踏まえつつ、**更なる対策強化を進め、発生予防・まん延防止に万全を期す。**

対策強化の4ポイント

①危機感の共有

- ✓ 「自分のところに来ても全くおかしくない」覚悟で体制を構築
- ✓ 関係者間で**危機感を共有し**、できる限りの準備が必要
- ✓ **1月**はこれまでも発生が多い**トップシーズン**。これまで発生がない地域でも引き続き**気を緩めることなく、危機感を共有して対応**

②飼養衛生管理の「隙」を埋める対策

- ✓ 従来の取組に加え、今シーズンの知見を生かした新たな対策の実施
(農場外関係者を含めた例外なき消毒徹底、鶏舎への塵埃侵入防止等)
- ✓ 特定症状に限らず、異状が確認された場合の**早期通報の徹底**
- ✓ **死亡羽数**がかなり多くなってからの遅れての通報が多い。**通報遅れは地域のまん延に繋がる**ため、改めて**早期通報を徹底**

③大規模農場対策・再発対策

- ✓ 今シーズン発生事例のうち過半が、過去に発生した農場又は地域における**再発**
- ✓ **大規模農場や再発地域**は、発生した場合の影響や再発リスクが高く、農場密集地域における**注意喚起や再点検**が重要
- ✓ **飼養羽数20万羽以上**の農場における飼養衛生管理の**再点検**
- ✓ 殺処分羽数の低減に向けた農場の**分割管理**の推進
(発生時に殺処分対象とならない管理の働き掛け 等)
- ✓ 全国会議後もなお**大規模・過去発生農場での発生が見られており**、引き続き**重点的な指導・監視**を実施

④発生時の速やかな防疫措置

- ✓ 迅速な**初動対応**に向けた**体制の再点検**
- ✓ 十分な**防疫資材や作業員の確保**
- ✓ 発生しても**1例で止める**ことが基本。**地域で続発するような事例**については、周辺の農場内外での徹底した消毒など**地域ぐるみでのまん延防止対策**を推進
※年未年始以降、愛知県において**地域的に連続した発生**が見られることから、**愛知県全域における緊急消毒（全額国費負担）を実施**（1/10決定）13

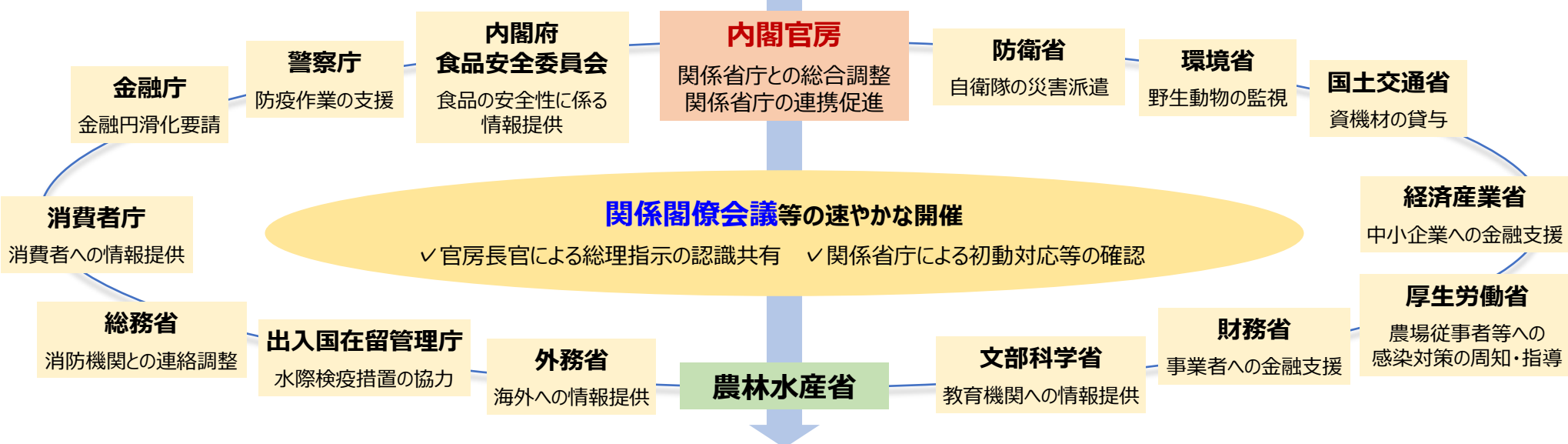
9 発生時における政府一体となった対応

- 高病原性鳥インフルエンザの発生時には、**政府一体となった迅速かつ的確な初動対応**を行うことにより、早期の収束を図ることが重要。
- このため、**総理指示**を踏まえ、**内閣官房**が中心となり関係省庁の初動対応等の確認を行い、早期の事案の収束や感染拡大防止を図る。



総理指示

- 農林水産省はじめ関係各省が緊密に連携し、徹底した防疫措置を迅速に進めること。
- 現場の情報をしっかり収集すること。
- 家きん業者に対し、**厳重な警戒を要請**するとともに、**予防措置について適切な指導・支援**を行うこと。
- 国民に対して**正確な情報を迅速に伝える**こと。



政府一体となった迅速かつ的確な初動対応の実施

※感染拡大が想定される場合には、総理を本部長とし全閣僚が出席する「**対策本部**」を開催。

10 過去の発生事例

<平成15年度の発生> H5N1亜型 (高病原性)
 1～3月…3府県4事例 約27万羽 (山口県、大分県、京都府)
 (※我が国で79年ぶりとなる高病原性鳥インフルエンザの発生)

<平成18年度の発生> H5N1亜型 (高病原性)
 1～2月…2県4事例 約16万羽 (宮崎県、岡山県)

<平成22年度の発生> H5N1亜型 (高病原性)
 11～3月…9県24事例 約183万羽 (島根県、宮崎県、鹿児島県、愛知県、大分県、三重県、奈良県、和歌山県、千葉県)

<平成26年度の発生> H5N8亜型 (高病原性)
 4月…1県1事例 約10万羽 (熊本県)
 12～1月…4県5事例 約35万羽 (宮崎県、山口県、岡山県、佐賀県)

<平成28年度の発生> H5N6亜型 (高病原性)
 11～3月…9道県12事例 約166万羽 (青森県、新潟県、北海道、宮崎県、熊本県、岐阜県、佐賀県、宮城県、千葉県)

<平成29年度の発生> H5N6亜型 (高病原性)
 平成30年1月…1県1事例 約9.1万羽 (香川県)

<平成17年度の発生> H5N2亜型 (低病原性)
 6～12月…2県41事例 約578万羽 (茨城県、埼玉県)

<平成20年度の発生> H7N6亜型 (低病原性)
 2～3月…1県7事例 (うずら) 約160万羽 (愛知県)

※野鳥における発生 (高病原性)

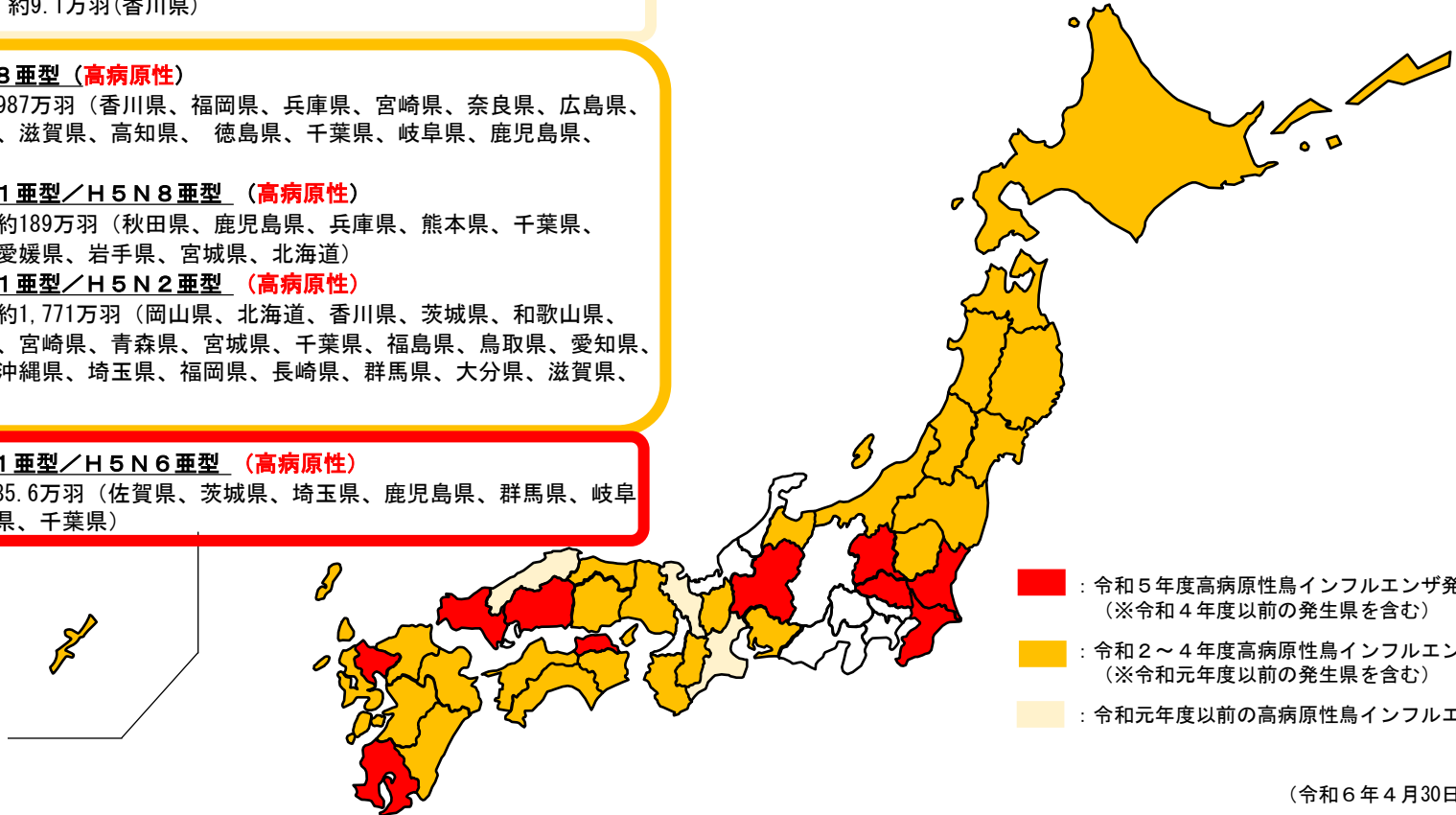
- 平成20年 全3県
- 平成22～23年 全16県 (他3県における動物園等の飼育鳥からウイルスを確認)
- 平成26～27年 全6県12例 (H5N8型)
- 平成28～29年 全22都道府県 218例 (H5N6型)
- 平成29～30年 全3都県45例 (H5N6型)
- 令和2～3年 全18道県58例 (H5N8型)
- 令和3～4年 全8道府県107例 (H5N1型/ H5N8型)
- 令和4～5年 全26道県184事例 (H5N1型/H5N2型/H5N8型) (飼養鳥全5県8事例 (H5N1型))

<令和2年度の発生> H5N8亜型 (高病原性)
 11～3月…18県52事例 約987万羽 (香川県、福岡県、兵庫県、宮崎県、奈良県、広島県、大分県、和歌山県、岡山県、滋賀県、高知県、徳島県、千葉県、岐阜県、鹿児島県、富山県、茨城県、栃木県)

<令和3年度の発生> H5N1亜型/H5N8亜型 (高病原性)
 11～5月…12道県25事例 約189万羽 (秋田県、鹿児島県、兵庫県、熊本県、千葉県、埼玉県、広島県、青森県、愛媛県、岩手県、宮城県、北海道)

<令和4年度の発生> H5N1亜型/H5N2亜型 (高病原性)
 10～4月…26道県84事例 約1,771万羽 (岡山県、北海道、香川県、茨城県、和歌山県、兵庫県、鹿児島県、新潟県、宮崎県、青森県、宮城県、千葉県、福島県、鳥取県、愛知県、佐賀県、山形県、広島県、沖縄県、埼玉県、福岡県、長崎県、群馬県、大分県、滋賀県、岩手県)

<令和5年度の発生> H5N1亜型/H5N6亜型 (高病原性)
 11～4月…10県11事例 約85.6万羽 (佐賀県、茨城県、埼玉県、鹿児島県、群馬県、岐阜県、山口県、香川県、広島県、千葉県)



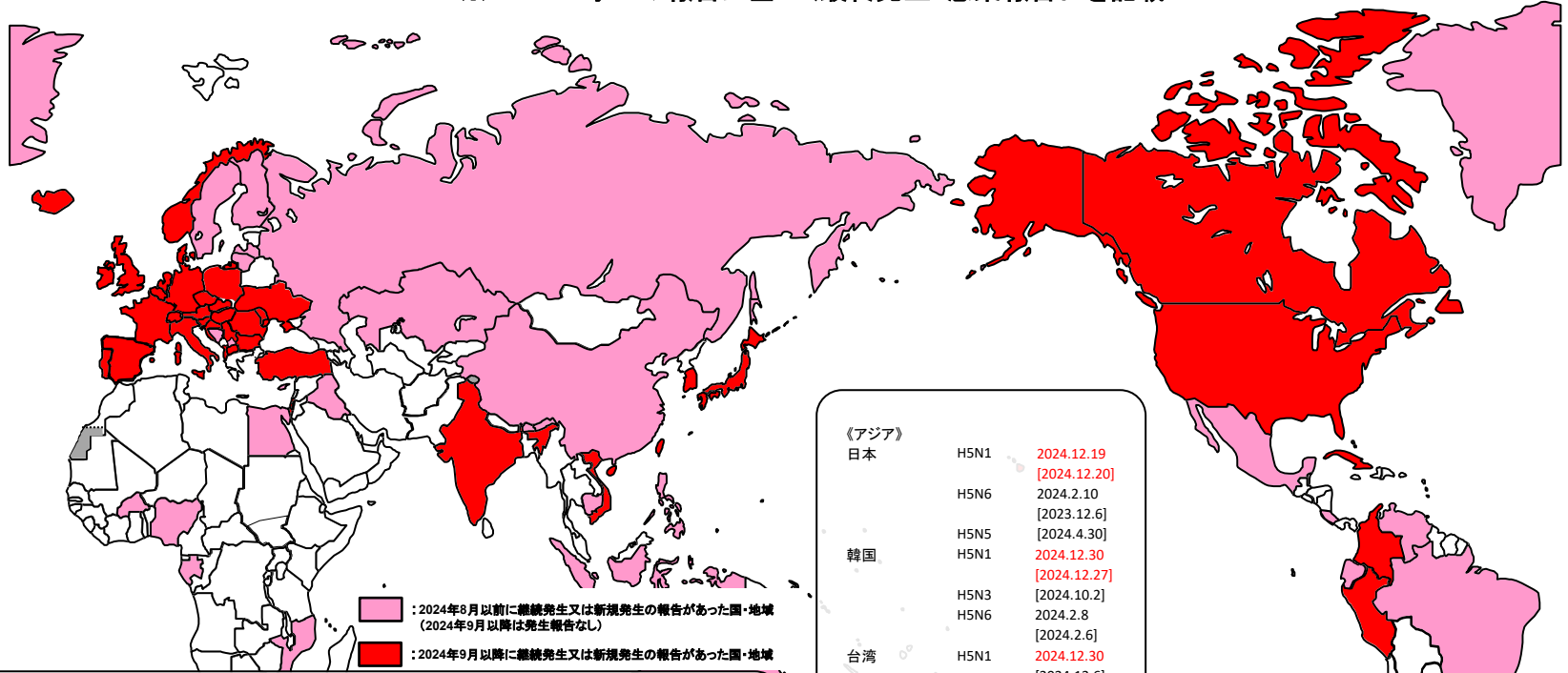
■ : 令和5年度高病原性鳥インフルエンザ発生県 (※令和4年度以前の発生県を含む)

■ : 令和2～4年度高病原性鳥インフルエンザ発生道府県 (※令和元年度以前の発生県を含む)

■ : 令和元年度以前の高病原性鳥インフルエンザ発生県

11 世界における発生・感染報告状況（2023年9月以降）

※WAHIS等への報告に基づく最終発生・感染報告日を記載



: 2024年8月以前に継続発生又は新規発生の報告があった国・地域 (2024年9月以降は発生報告なし)
 : 2024年9月以降に継続発生又は新規発生の報告があった国・地域

国・地域	発生・感染報告状況
デンマーク	H5N1 2024.9.8 [2024.12.4]
ベルギー	H5N1 2023.12.28 [2024.8.14]
アイスランド	H5N5 2024.12.2 [2024.11.22]
グリーンランド	H5N5 [2023.9.14]
アイスランド	H5N1 [2024.12.13]
フェロー諸島	H5N5 2023.10.6 [2024.10.21]
イタリア	H5N1 2024.12.9 [2024.12.2]
ドイツ	H5N1 2024.12.27 [2024.12.16]
ポーランド	H5N1 2024.12.31 [2024.12.16]
英国	H5N1 2024.12.28 [2024.12.23]
H5 2024.11.1 [2024.11.29]	H5 2024.12.23
南スウェーデン	H5N5 2024.11.1 [2024.11.29]
サウスジョージア・サウスサトウツツ諸島	H5N1 [2023.11.08]
フィンランド	H5N1 2024.12.7 [2024.12.22]
オランダ	H5N1 2024.12.7 [2024.12.22]
北マケドニア	H5N1 2024.10.14 [2024.10.25]
スイス	H5N1 2024.12.6 [2024.12.6]
スウェーデン	H5N1 2024.3.14 [2024.2.16]
H5 [2024.2.21]	H5 2024.11.14 [2024.12.16]
スペイン	H5N1 2024.10.16 [2024.12.16]
スロベニア	H5N1 2024.10.16 [2024.12.16]
セルビア	H5N1 2024.10.17 [2024.11.29]
クロアチア	H5N1 2024.11.29 [2024.11.26]
ハンガリー	H5N1 2024.12.9 [2024.12.5]
フィンランド	H5N1 2024.11.13 [2024.12.18]
フランス	H5N1 2024.11.13 [2024.12.18]
ブルガリア	H5 2023.11.27 [2024.10.21]
H5N1 2024.10.21	H5 2023.12.28 [2023.12.28]
カザフスタン	H5 2023.12.28 [2023.12.28]
コソボ	H5N1 発生日不詳 [2024.9.22]
ウクライナ	H5 2024.9.22 [2024.9.17]
H5N1 2024.11.25 [2024.9.23]	H5N1 2024.11.25 [2024.9.23]

国・地域	発生・感染報告状況
日本	H5N1 2024.12.19 [2024.12.20]
H5N6 2024.2.10 [2023.12.6]	H5N5 2024.4.30 [2024.4.30]
韓国	H5N1 2024.12.30 [2024.12.27]
H5N3 2024.10.2 [2024.10.2]	H5N6 2024.2.8 [2024.2.6]
台湾	H5N1 2024.12.30 [2024.12.6]
香港	H5N1 2024.11.15 [2024.11.15]
イスラエル	H5N1 2024.12.28 [2024.10.25]
フィリピン	H5N1 2024.3.10 [2024.9.8]
ベトナム	H5N1 2024.9.8 [2024.9.6]
インド	H5N1 2024.8.13 [2024.12.4]
カンボジア	H5N1 2024.7.30 [2023.10.8]
ブータン	H5N1 2024.8.29 [2024.5.11]
中国	H5N1 2024.5.11 [2024.5.25]
H5 [2024.5.25]	H5N6 2024.6.13 [2024.5.11]
イラク	H5N1 2024.5.11 [2023年下半期]
インドネシア	H5N1 2023年下半期

国・地域	発生・感染報告状況
豪州	H7N3 2024.6.23 [2024.5.22]
H7N9 2024.5.22	H7N8 2024.7.8 [2024.11.23]
ニュージーランド	H7N6 2024.11.23

《ロシア・NIS諸国》		
ロシア	H5N1	2023.10.19
南樺太	H5N1	2024.2.1
モルドバ	H5N1	2024.12.25 [2024.11.19]

《アフリカ》		
南アフリカ共和国	H7N6	2024.7.9
不明	不明	2024.2.29 [2024.4.20]
ナイジェリア	H5N1	2024.8.27
モザンビーク	H7	2023.9.29
ブルキナファソ	H5N1	2024.3.26
ガボン共和国	H5N1	2024.5.3
エジプト	H5N1	2023年下半期
H5N8	H5N8	2023年下半期
H5	H5	2023年下半期

《南北アメリカ》		
米国	H5N1	2024.12.22 [2024.11.21]
H5 [2023.9.6]	H5N1 2024.12.20 [2024.7.1]	
カナダ	H5N1 2024.12.20 [2024.7.1]	
H5N2 2024.11.16 [2024.11.18]	H5 [2024.7.1]	
メキシコ	H5N1 2024.7.26 [2024.11.25]	
H7N3 2024.5.7 [2024.3.6]	H5N2 2024.3.6 [2024.2.27]	
エクアドル	H5N1 2024.2.27 [2023.11.14]	
コロンビア	H5N1 2024.12.15 [2023.9.19]	
ベネズエラ	H5 2023.9.19 [2024.12.17]	
ペルー	H5 2024.12.17 [2024.5.6]	
コスタリカ	H5 [2023.10.11]	
ウルグアイ	H5 [2023.10.4]	
アルゼンチン	H5N1 2023.11.15 [2023.12.24]	
H5 [2024.1.12]	ブラジル H5N1 2023.9.12 [2024.5.28]	

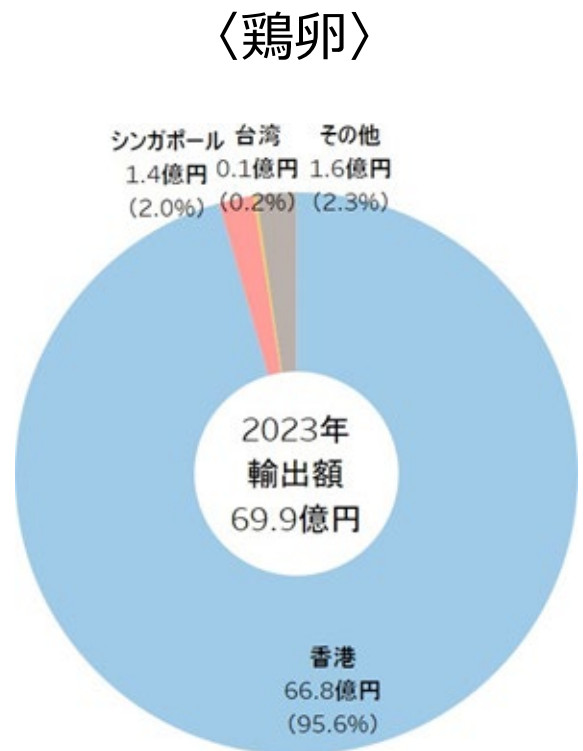
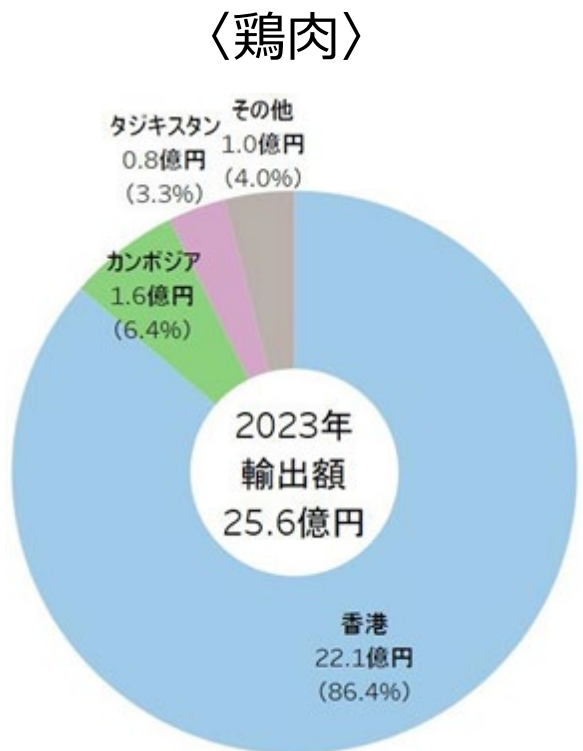
出典:WOAH等
2025年1月6日現在

※[]は野鳥及び愛玩鳥等における感染事例を示す。
 ※本図は感染事例の報告の有無を示したもので、その後の清浄性確認については記載していない。
 ※型別に最新の発生事例を記載
 ※白色の国、地域であっても継続感染等により報告されていない可能性もある。
 ※WAHIS:World Animal Health Information Systemとは、WOAH(国際獣疫事務局)が提供する動物衛生情報システムである。

12 輸出への影響

- 高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認された場合、同日から、香港、シンガポール、マカオ、米国、ベトナムに対しては、発生県の鶏肉・鶏卵の輸出を停止。
- その他の国に対しては、全国の鶏肉・鶏卵の輸出を一時停止。その後、輸出停止の解除に向け、輸出先国と交渉。

【参考：鶏肉及び鶏卵の輸出実績（2023年）について】



家きんにおける高病原性鳥インフルエンザ発生の疑い事例に係る
環境省の対応について

令和7年1月12日
環境省自然環境局

1. 愛知県常滑市の家きん農場における高病原性鳥インフルエンザ発生の疑い事例に対する環境省の対応は、以下のとおり。

- 発生農場周辺半径 10km 圏内を「野鳥監視重点区域」に指定し、愛知県に野鳥の監視を強化するよう要請。
- 環境省中部地方環境事務所に、愛知県と連携し現地周辺の野鳥に関する情報収集を行うよう指示。
- 愛知県と調整の上、野鳥での感染状況の把握等を目的として、区域内の渡り鳥の飛来状況や鳥類の生息状況等の調査を実施予定。

2. 千葉県銚子市の家きん農場における高病原性鳥インフルエンザ発生の疑い事例に対する環境省の対応は、以下のとおり。

- 発生農場周辺半径 10km 圏内を「野鳥監視重点区域」に指定し、千葉県に野鳥の監視を強化するよう要請。
- 環境省関東地方環境事務所に、千葉県と連携し現地周辺の野鳥に関する情報収集を行うよう指示。
- 千葉県と調整の上、野鳥での感染状況の把握等を目的として、区域内の渡り鳥の飛来状況や鳥類の生息状況等の調査を実施予定。

(参考) 野鳥の監視等の具体的な内容

- 都道府県と連携して通年で死亡野鳥等を対象に検査し、高病原性鳥インフルエンザウイルスの保有状況を調査。
- 国内の複数箇所が高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された場合、野鳥サーベイランスにおける全国の対応レベルを最高レベルの「対応レベル3」として、野鳥監視を強化。
- 死亡野鳥、環境試料（水等）及び家きんにおいて高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された各地点の周辺半径 10km 圏内を「野鳥監視重点区域」に指定。同区域内では野鳥での感染状況の把握等を目的とした渡り鳥の飛来状況や鳥類の生息状況等の調査を実施。

※今シーズンの発生状況（令和7年1月12日15時00分現在）

- ・家きん：1道13県28例 ※今回の発生を含む
- ・野鳥：1道14県95例
- ・飼養鳥：0県0例

（別表のとおり野鳥監視重点区域を指定）

令和6（2024）年シーズン家きんにおける野鳥監視重点区域の指定状況

家きん国内 ○例目	場所			検体情報	簡易検査陽性 結果判明日	PCR検査による 疑似患畜確定日	野鳥監視重点区域		
	都道府県	都道府県内 ○例目	市町村				指定日	防疫措置完了日 (消毒終了)	解除日 (防疫措置が完了した日の 次の日を1日目として 28日目の24時に解除)
1例目	北海道	1例目	厚真町	肉用鶏	10/16	10/17	10/17	10/20	11/17解除
2例目	千葉県	1例目	香取市	採卵鶏	10/22	10/23	10/23	10/24	11/21解除
3例目	新潟県	1例目	上越市	採卵鶏	10/25	10/26	10/26	10/26	11/23解除
4例目	島根県	1例目	大田市	採卵鶏	10/30	10/31	10/31	11/10	12/8解除
5例目	新潟県	2例目	胎内市	採卵鶏	11/5	11/6	11/6	11/12	12/10解除
6例目	香川県	1例目	三豊市	採卵鶏	11/7	11/7	11/7	11/12	12/10解除
7例目	宮城県	1例目	石巻市	肉用鶏	11/9	11/10	11/10	11/16	12/14解除
8例目	北海道	2例目	旭川市	採卵鶏	11/11	11/12	11/12	11/16	12/14解除
9例目	岐阜県	1例目	本巣市	採卵鶏	11/18	11/19	11/19	11/22	12/20解除
10例目	鹿児島県	1例目	出水市	採卵鶏	11/19	11/20	11/20	11/25	2/3予定 (野鳥95例目と重複)

令和6（2024）年シーズン家きんにおける野鳥監視重点区域の指定状況

家きん国内 ○例目	場所			検体情報	簡易検査陽性 結果判明日	PCR検査による 疑似患畜確定日	野鳥監視重点区域		
	都道府県	都道府県内 ○例目	市町村				指定日	防疫措置完了日 (消毒終了)	解除日 (防疫措置が完了した日の 次の日を1日目として 28日目の24時に解除)
11例目	埼玉県	1例目	行田市	あひる（肉用）	11/24	11/25	11/25	11/26	12/27解除 (野鳥57例目と重複)
12例目	宮崎県	1例目	川南町	肉用鶏	12/2	12/3	12/3	12/4	1/1解除
13例目	愛媛県	1例目	西条市	採卵鶏	12/9	12/10	12/10	12/20	1/23予定 (家きん14例目と重複)
14例目	愛媛県	2例目	西条市	採卵鶏	12/18	12/19	12/19	12/26	1/23予定
15例目	鹿児島県	2例目	霧島市	肉用鶏	12/19	12/20	12/20	12/23	2/6予定 (家きん21例目と重複)
16例目	茨城県	1例目	八千代町	採卵鶏	12/28	12/29	12/29	未定	未定
17例目	愛知県	1例目	常滑市	採卵鶏	1/1	1/2	1/2	未定	未定 (家きん27例目と重複)
18例目	岩手県	1例目	盛岡市	採卵鶏	1/1	1/2	1/2	1/6	未定 (家きん26例目と重複)
19例目	岩手県	2例目	軽米町	肉用鶏	1/4	1/5	1/5	1/7	2/4予定
20例目	愛知県	2例目	常滑市	採卵鶏	1/5	1/6	1/6	未定	未定 (家きん27例目と重複)

令和6（2024）年シーズン家きんにおける野鳥監視重点区域の指定状況

家きん国内 ○例目	場所			検体情報	簡易検査陽性 結果判明日	PCR検査による 疑似患畜確定日	野鳥監視重点区域		
	都道府県	都道府県内 ○例目	市町村				指定日	防疫措置完了日 (消毒終了)	解除日 (防疫措置が完了した日の 次の日を1日目として 28日目の24時に解除)
21例目	鹿児島県	3例目	霧島市	肉養鶏	1/6	1/7	1/7	1/9	2/6予定
22例目	愛知県	3例目	常滑市	採卵鶏	1/9	1/9	1/9	未定	未定 (家きん27例目と重複)
23例目	愛知県	4例目	常滑市	採卵鶏	1/9	1/10	1/10	未定	未定 (家きん27例目と重複)
24例目	愛知県	5例目	常滑市	採卵鶏	1/9	1/10	1/10	未定	未定 (家きん27例目と重複)
25例目	宮崎県	2例目	串間市	肉用鶏	1/10	1/11	1/11	未定	未定
26例目	岩手県	3例目	盛岡市	採卵鶏	1/10	1/11	1/11	未定	未定
27例目	愛知県	6例目	常滑市	採卵鶏	1/11	1/11	1/11	未定	未定
28例目	千葉県	2例目	銚子市	採卵鶏	1/11	1/12	1/12	未定	未定

令和6（2024）年シーズンの野鳥の鳥インフルエンザ発生状況

野鳥国内 ○例目	回収日 採取日	場所			検体情報				簡易検査		遺伝子検査			最終判定	野鳥監視重点区域	
		都道府県	都道府県内 ○例目	市町村	検体の種類	種名	国内希少 野生動物種	陽性個体数	結果	結果判明日	HA亜型	病原性	結果判明日		指定日	解除日
1例目	9/30	北海道	1例目	乙部町	死亡野鳥	ハヤブサ	○	1	簡易陽性	10/1	H5亜型	H5亜型高病原性	10/4	H5N1亜型高病原性	10/1	10/28解除
2例目	10/8	北海道	2例目	別海町	野鳥糞便	ヒドリガモ	—	101検体 (うち1検体で 検出)	—	—	H5亜型	H5亜型高病原性	10/15	H5N1亜型高病原性	10/15	11/5解除
3例目	10/16	北海道	3例目	斜里町	衰弱野鳥	オジロワシ	○	1	簡易陰性	10/16	H5亜型 (10/16 A型鳥インフル エンザウイルス検出)	H5亜型高病原性	10/23	H5N1亜型高病原性	10/16	11/13解除
4例目	10/18	福島県	1例目	会津若松市	死亡野鳥	コガモ	—	1	簡易陰性	10/18	H5亜型 (10/21 A型鳥インフル エンザウイルス検出)	H5亜型高病原性	10/23	H5N1亜型高病原性	10/21	11/15解除
5例目	10/21	新潟県	1例目	長岡市	衰弱野鳥	オオタカ	—	1	簡易陽性	10/21	H5亜型	H5亜型高病原性	10/25	H5N1亜型高病原性	10/21	11/18解除
6例目	10/21	秋田県	1例目	湯上市	衰弱野鳥	コガモ	—	1	簡易陰性	10/21	H5亜型 (10/23 A型鳥インフル エンザウイルス検出)	H5亜型高病原性	10/25	H5N1亜型高病原性	10/23	11/18解除
7例目	10/23	新潟県	2例目	阿賀野市	死亡野鳥	オオタカ	—	1	簡易陰性	10/25	H5亜型 (10/28 A型鳥インフル エンザウイルス検出)	H5亜型高病原性	10/30	H5N1亜型高病原性	10/28	11/20解除
8例目	10/24	北海道	4例目	清里町	死亡野鳥	オオハクチョウ	—	1	簡易陰性	10/25	H5亜型 (10/28 A型鳥インフル エンザウイルス検出)	H5亜型高病原性	10/30	H5N1亜型高病原性	10/28	11/29解除 (野鳥23例目と重複)
9例目	10/25	滋賀県	1例目	長浜市	死亡野鳥	ハヤブサ	○	1	簡易陽性	10/28	H5亜型	H5亜型高病原性	10/31	H5N1亜型高病原性	10/28	11/22解除
10例目	10/25	北海道	5例目	浜中町	死亡野鳥	オオハクチョウ	—	1	簡易陰性	10/25	H5亜型 (10/31 A型鳥インフル エンザウイルス検出)	H5亜型高病原性	11/5	H5N1亜型高病原性	10/31	11/22解除
11例目	10/29	北海道	6例目	斜里町	死亡野鳥	オオハクチョウ	—	1	簡易陰性	10/30	H5亜型 (11/5 A型鳥インフル エンザウイルス検出)	H5亜型高病原性	11/7	H5N1亜型高病原性	11/5	12/23解除 (野鳥・11/25斜里町疑い事例と重複)
12例目	10/30	北海道	7例目	釧路市	死亡野鳥	オオハクチョウ	—	1	簡易陰性	10/30	H5亜型 (11/5 A型鳥インフル エンザウイルス検出)	H5亜型高病原性	11/7	H5N1亜型高病原性	11/5	12/12解除 (野鳥・11/14釧路市疑い事例と重複)
13例目	10/31	北海道	8例目	北見市	死亡野鳥	ハヤブサ	○	1	簡易陽性	11/1	H5亜型	H5亜型高病原性	11/7	H5N1亜型高病原性	11/1	11/28解除
14例目	10/31	北海道	9例目	大空町	死亡野鳥	オオハクチョウ	—	1	簡易陰性	11/1	H5亜型 (11/5 A型鳥インフル エンザウイルス検出)	H5亜型高病原性	11/7	H5N1亜型高病原性	11/5	11/28解除
15例目	10/24	徳島県	1例目	阿南市	死亡野鳥	ヒドリガモ	—	1	簡易陰性	10/24	H5亜型 (11/5 A型鳥インフル エンザウイルス検出)	H5亜型高病原性	11/7	H5N1亜型高病原性	11/5	11/21解除
16例目	10/30	北海道	10例目	池田町	死亡野鳥	オオハクチョウ	—	1	簡易陰性	10/30	H5亜型 (11/5 A型鳥インフル エンザウイルス検出)	H5亜型高病原性	11/7	H5N1亜型高病原性	11/5	11/27解除
17例目	10/31	北海道	11例目	本別町	死亡野鳥	オオハクチョウ	—	1	簡易陰性	10/31	H5亜型 (11/5 A型鳥インフル エンザウイルス検出)	H5亜型高病原性	11/7	H5N1亜型高病原性	11/5	11/28解除
18例目	11/1	新潟県	3例目	十日町市	死亡野鳥	オオタカ	—	1	簡易陽性	11/1	H5亜型	H5亜型高病原性	11/7	H5N1亜型高病原性	11/1	11/29解除

令和6（2024）年シーズンの野鳥の鳥インフルエンザ発生状況

野鳥国内 ○例目	回収日 採取日	場所			検体情報				簡易検査		遺伝子検査			最終判定	野鳥監視重点区域	
		都道府県	都道府県内 ○例目	市町村	検体の種類	種名	国内希少 野生動物種	陽性個体数	結果	結果判明日	HA亜型	病原性	結果判明日		指定日	解除日
19例目	11/3	新潟県	4例目	新潟市	死亡野鳥	キンクロハジロ	—	1	簡易陽性	11/3	H5亜型	H5亜型高病原性	11/7	H5N1亜型高病原性	11/3	12/1解除
20例目	11/4	鹿児島県	1例目	出水市	環境試料（水）	—	—	16検体 （うち4検体で 検出）	—	—	H5亜型	H5亜型高病原性	11/8	H5N1亜型高病原性	11/8	2/3予定 （野鳥95例目と重複）
21例目	10/22	北海道	12例目	標茶町	死亡野鳥	タンチョウ	○	1	簡易陽性	11/2	H5亜型	H5亜型高病原性	11/11	H5N1亜型高病原性	11/2	11/19解除
22例目	10/31	秋田県	2例目	横手市	死亡野鳥	オオハクチョウ	—	1	簡易陰性	10/31	H5亜型 （11/5 A型鳥インフル エンザウイルス検出）	H5亜型高病原性	11/11	H5N1亜型高病原性	11/5	11/28解除
23例目	11/1	北海道	13例目	清里町	死亡野鳥	タンチョウ	○	1	簡易陽性	11/2	H5亜型	H5亜型高病原性	11/11	H5N1亜型高病原性	11/2	11/29解除
24例目	11/1	福岡県	1例目	福岡市	死亡野鳥	ヒドリガモ	—	1	簡易陰性	11/1	H5亜型 （11/7 A型鳥インフル エンザウイルス検出）	H5亜型高病原性	11/11	H5N1亜型高病原性	11/7	11/29解除
25例目	11/3	岩手県	1例目	盛岡市	死亡野鳥	オオハクチョウ	—	1	簡易陰性	11/5	H5亜型 （11/7 A型鳥インフル エンザウイルス検出）	H5亜型高病原性	11/11	H5N1亜型高病原性	11/7	12/1解除
26例目	11/5	滋賀県	2例目	草津市	死亡野鳥	ヒドリガモ	—	1	簡易陰性	11/5	H5亜型 （11/11 A型鳥インフル エンザウイルス検出）	H5亜型高病原性	11/13	H5N1亜型高病原性	11/11	12/3解除
27例目	11/9	福井県	1例目	福井市	死亡野鳥	ハヤブサ	○	1	簡易陽性	11/10	H5亜型	H5亜型高病原性	11/13	H5N1亜型高病原性	11/10	12/7解除
28例目	10/29	鳥取県	1例目	鳥取市	野鳥糞便	カモ・ハクチョウ類	—	10検体 （うち8検体で 検出）	—	—	H5亜型	H5亜型高病原性	11/18	H5N1亜型高病原性	11/18	12/5解除 （野鳥32例目と重複）
29例目	11/10	北海道	14例目	札幌市	死亡野鳥	ハシブトガラス	—	1	簡易陽性	11/10	H5亜型	H5亜型高病原性	11/18	H5N1亜型高病原性	11/10	12/8解除
30例目	11/11	鹿児島県	2例目	出水市	環境試料（水）	—	—	16検体 （うち8検体で 検出）	—	—	H5亜型	H5亜型高病原性	11/18	H5N1亜型高病原性	11/18	2/3予定 （野鳥95例目と重複）
31例目	11/13	福島県	2例目	福島市	死亡野鳥	オオハクチョウ	—	1	簡易陰性	11/13	H5亜型 （11/14 A型鳥インフル エンザウイルス検出）	H5亜型高病原性	11/18	H5N1亜型高病原性	11/14	12/16解除 （野鳥38例目と重複）
32例目	11/7	鳥取県	2例目	鳥取市	野鳥糞便	マガモ・カモ類	—	20検体 （うち1検体で 検出）	—	—	H5亜型	H5亜型高病原性	11/18	H5N1亜型高病原性	11/18	12/5解除
33例目	11/12	熊本県	1例目	天草市	死亡野鳥	ヒドリガモ	—	2	簡易陰性	11/12	H5亜型 （11/18 A型鳥インフル エンザウイルス検出）	H5亜型高病原性	11/20 11/21	H5N1亜型高病原性	11/18	12/10解除
34例目	11/16	鹿児島県	3例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	1	簡易陽性	11/17	H5亜型	H5亜型高病原性	11/20	H5N1亜型高病原性	11/17	2/3予定 （野鳥95例目と重複）
35例目	11/17	鹿児島県	4例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	2	簡易陽性	11/17	H5亜型	H5亜型高病原性	11/20	H5N1亜型高病原性	11/17	2/3予定 （野鳥95例目と重複）
36例目	11/17	鹿児島県	5例目	出水市	死亡野鳥	ヒドリガモ	—	1	簡易陽性	11/18	H5亜型	H5亜型高病原性	11/20	H5N1亜型高病原性	11/18	2/3予定 （野鳥95例目と重複）

令和6（2024）年シーズンの野鳥の鳥インフルエンザ発生状況

野鳥国内 ○例目	回収日 採取日	場所			検体情報				簡易検査		遺伝子検査			最終判定	野鳥監視重点区域	
		都道府県	都道府県内 ○例目	市町村	検体の種類	種名	国内希少 野生動物種	陽性個体数	結果	結果判明日	HA亜型	病原性	結果判明日		指定日	解除日
37例目	11/15	北海道	15例目	鶴居村	死亡野鳥	オジロフシ	○	1	簡易陽性	11/17	H5亜型	H5亜型高病原性	11/22	H5N1亜型高病原性	11/17	12/13解除
38例目	11/18	福島県	3例目	福島市	衰弱野鳥	オオハクチョウ	—	1	簡易陰性	11/18	H5亜型 (11/19 A型鳥インフル エンザウィルス検出)	H5亜型高病原性	11/22	H5N1亜型高病原性	11/19	12/16解除
39例目	11/18	鹿児島県	6例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	2	簡易陽性	11/18	H5亜型	H5亜型高病原性	11/22	H5N1亜型高病原性	11/18	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
40例目	11/18	鹿児島県	7例目	出水市	環境試料（水）	—	—	10検体 (うち2検体で 検出)	—	—	H5亜型	H5亜型高病原性	11/26	H5N1亜型高病原性	11/26	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
41例目	11/18	鹿児島県	8例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	1	簡易陽性	11/20	H5亜型	H5亜型高病原性	11/26	H5N1亜型高病原性	11/20	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
42例目	11/19	鹿児島県	9例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	4	簡易陽性	11/20	H5亜型	H5亜型高病原性	11/26	H5N1亜型高病原性	11/20	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
43例目	11/20	鹿児島県	10例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	6	簡易陽性(5) 簡易陰性(1)	11/20 11/21	H5亜型	H5亜型高病原性	11/26	H5N1亜型高病原性	11/20	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
44例目	11/20	鹿児島県	11例目	出水市	死亡野鳥	マナヅル	—	1	簡易陽性	11/20	H5亜型	H5亜型高病原性	11/26	H5N1亜型高病原性	11/20	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
45例目	11/21	鹿児島県	12例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	3	簡易陽性	11/21	H5亜型	H5亜型高病原性	11/26	H5N1亜型高病原性	11/21	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
46例目	11/20	北海道	16例目	根室市	死亡野鳥	ハシボソガラス	—	1	簡易陽性	11/20	H5亜型	H5亜型高病原性	11/27	H5N1亜型高病原性	11/20	12/19解除 (野鳥42例目と重複)
47例目	11/21	北海道	17例目	根室市	死亡野鳥	ハシボソガラス	—	1	簡易陽性	11/21	H5亜型	H5亜型高病原性	11/27	H5N1亜型高病原性	11/21	12/19解除
48例目	11/21	鹿児島県	13例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	1	簡易陽性	11/22	H5亜型	H5亜型高病原性	11/27	H5N1亜型高病原性	11/22	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
49例目	11/22	鹿児島県	14例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	3	簡易陽性	11/22	H5亜型	H5亜型高病原性	11/27	H5N1亜型高病原性	11/22	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
50例目	11/25	愛知県	1例目	大府市	死亡野鳥	ヒドリガモ	—	1	簡易陰性	11/25	H5亜型 (11/26 A型鳥インフル エンザウィルス検出)	H5亜型高病原性	11/28	H5N1亜型高病原性	11/26	12/23解除
51例目	11/22	北海道	18例目	厚岸町	死亡野鳥	オオハクチョウ	—	1	簡易陰性	11/23	H5亜型 (11/27 A型鳥インフル エンザウィルス検出)	H5亜型高病原性	11/29	H5N1亜型高病原性	11/27	12/20解除
52例目	11/23	鹿児島県	15例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	2	簡易陽性(1) 簡易陰性(1)	11/24	H5亜型	H5亜型高病原性	11/29	H5N1亜型高病原性	11/24	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
53例目	11/24	鹿児島県	16例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	1	簡易陽性	11/24	H5亜型	H5亜型高病原性	11/29	H5N1亜型高病原性	11/24	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
54例目	11/25	鹿児島県	17例目	出水市	環境試料（水）	—	—	10検体 (うち4検体で 検出)	—	—	H5亜型	H5亜型高病原性	12/2	H5N1亜型高病原性	12/2	2/3予定 (野鳥95例目と重複)

令和6（2024）年シーズンの野鳥の鳥インフルエンザ発生状況

野鳥国内 ○例目	回収日 採取日	場所			検体情報				簡易検査		遺伝子検査			最終判定	野鳥監視重点区域	
		都道府県	都道府県内 ○例目	市町村	検体の種類	種名	国内希少 野生動植物種	陽性個体数	結果	結果判明日	HA亜型	病原性	結果判明日		指定日	解除日
55例目	11/25	鹿児島県	18例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	3	簡易陽性	11/25	H5亜型	H5亜型高病原性	12/2	H5N1亜型高病原性	11/25	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
56例目	11/27	北海道	19例目	別海町	死亡野鳥	ハシボソガラス	—	1	簡易陽性	11/27	H5亜型	H5亜型高病原性	12/4	H5N1亜型高病原性	11/27	12/25解除
57例目	11/29	埼玉県	1例目	熊谷市	死亡野鳥	ハヤブサ	○	1	簡易陽性	11/29	H5亜型	H5亜型高病原性	12/4	H5N1亜型高病原性	11/29	12/27解除
58例目	11/27	鹿児島県	19例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	2	簡易陽性	11/29	H5亜型	H5亜型高病原性	12/4	H5N1亜型高病原性	11/29	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
59例目	11/28	鹿児島県	20例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	3	簡易陽性	11/29	H5亜型	H5亜型高病原性	12/4	H5N1亜型高病原性	11/29	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
60例目	11/29	鹿児島県	21例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	2	簡易陽性(1) 簡易陰性(1)	11/29	H5亜型	H5亜型高病原性	12/4	H5N1亜型高病原性	11/29	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
61例目	11/29	鹿児島県	22例目	出水市	死亡野鳥	マナヅル	—	1	簡易陽性	11/29	H5亜型	H5亜型高病原性	12/4	H5N1亜型高病原性	11/29	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
62例目	11/29	鹿児島県	23例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	1	簡易陽性	12/1	H5亜型	H5亜型高病原性	12/6	H5N1亜型高病原性	12/1	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
63例目	11/30	鹿児島県	24例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	3	簡易陽性(2) 簡易疑陽性(1)	12/1	H5亜型	H5亜型高病原性	12/6	H5N1亜型高病原性	12/1	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
64例目	12/1	鹿児島県	25例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	1	簡易陰性	12/1	H5亜型	H5亜型高病原性	12/6	H5N1亜型高病原性	12/6	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
65例目	12/2	鹿児島県	26例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	1	簡易陽性	12/3	H5亜型	H5亜型高病原性	12/9	H5N1亜型高病原性	12/3	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
66例目	12/2	鹿児島県	27例目	出水市	死亡野鳥	マナヅル	—	1	簡易陽性	12/3	H5亜型	H5亜型高病原性	12/9	H5N1亜型高病原性	12/3	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
67例目	12/3	鹿児島県	28例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	1	簡易陽性	12/3	H5亜型	H5亜型高病原性	12/9	H5N1亜型高病原性	12/3	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
68例目	12/1	北海道	20例目	斜里町	死亡野鳥	ハシブトガラス	—	1	簡易陽性	12/3	H5亜型	H5亜型高病原性	12/10	H5N1亜型高病原性	12/3	12/29解除
69例目	12/2	北海道	21例目	えりも町	死亡野鳥	ハシブトガラス	—	4	簡易陽性	12/3	H5亜型	H5亜型高病原性	12/10	H5N1亜型高病原性	12/3	2/3予定 (野鳥・1/6えりも町疑い事例と重複)
70例目	12/1	北海道	22例目	網走市	死亡野鳥	オオワシ	○	1	簡易陽性	12/3	H5亜型	H5亜型高病原性	12/11	H5N1亜型高病原性	12/3	12/29解除
71例目	12/4	北海道	23例目	えりも町	死亡野鳥	ハシブトガラス	—	1	簡易陽性	12/4	H5亜型	H5亜型高病原性	12/11	H5N1亜型高病原性	12/4	2/3予定 (野鳥・1/6えりも町疑い事例と重複)
72例目	12/2	鹿児島県	29例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	1	簡易陰性	12/5	H5亜型	H5亜型高病原性	12/13	H5亜型高病原性	12/13	2/3予定 (野鳥95例目と重複)

令和6（2024）年シーズンの野鳥の鳥インフルエンザ発生状況

野鳥国内 ○例目	回収日 採取日	場所			検体情報				簡易検査		遺伝子検査			最終判定	野鳥監視重点区域	
		都道府県	都道府県内 ○例目	市町村	検体の種類	種名	国内希少 野生動植物種	陽性個体数	結果	結果判明日	HA亜型	病原性	結果判明日		指定日	解除日
73例目	12/3	鹿児島県	30例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	1	簡易陽性	12/5	H5亜型	H5亜型高病原性	12/13	H5N1亜型高病原性	12/5	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
74例目	12/4	鹿児島県	31例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	1	簡易陰性	12/5	H5亜型	H5亜型高病原性	12/13	H5亜型高病原性	12/13	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
75例目	12/6	鹿児島県	32例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	2	簡易陽性	12/8	H5亜型	H5亜型高病原性	12/13	H5N1亜型高病原性	12/8	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
76例目	12/7	鹿児島県	33例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	1	簡易陰性	12/8	H5亜型	H5亜型高病原性	12/13	H5亜型高病原性	12/13	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
77例目	12/8	鹿児島県	34例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	1	簡易陽性	12/8	H5亜型	H5亜型高病原性	12/13	H5N1亜型高病原性	12/8	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
78例目	12/9	鹿児島県	35例目	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	—	1	簡易陽性	12/10	H5亜型	H5亜型高病原性	12/13	H5N1亜型高病原性	12/10	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
79例目	12/9	鹿児島県	36例目	出水市	環境試料（水）	—	—	10検体 (うち2検体で 検出)	—	—	H5亜型	H5亜型高病原性	12/16	H5N1亜型高病原性	12/16	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
80例目	12/9	北海道	24例目	広尾町	死亡野鳥	ハシブトガラス	—	1	簡易陽性	12/9	H5亜型	H5亜型高病原性	12/16	H5N1亜型高病原性	12/9	1/17予定 (野鳥88例目と重複)
81例目	12/11	岩手県	2例目	盛岡市	衰弱野鳥	オオハクチョウ	—	1	簡易陽性	12/11	H5亜型	H5亜型高病原性	12/16	H5N1亜型高病原性	12/11	1/8解除
82例目	12/13	北海道	25例目	札幌市	死亡野鳥	ハシブトガラス	—	1	簡易陽性	12/14	H5亜型	H5亜型高病原性	12/15	H5亜型高病原性	12/14	1/10解除
83例目	12/11	北海道	26例目	えりも町	死亡野鳥	ハシブトガラス	—	1	簡易陽性	12/11	H5亜型	H5亜型高病原性	12/18	H5N1亜型高病原性	12/11	2/3予定 (野鳥・1/6えりも町疑い事例と重複)
84例目	12/10	千葉県	1例目	長柄町	野鳥糞便	—	—	34検体 (うち1検体で 検出)	—	—	H5亜型	H5亜型高病原性	12/18	H5N1亜型高病原性	12/18	1/7解除
85例目	12/16	鹿児島県	37例目	出水市	環境試料（水）	—	—	10検体 (うち1検体で 検出)	—	—	H5亜型	H5亜型高病原性	12/23	H5N1亜型高病原性	12/23	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
86例目	12/17	鹿児島県	38例目	出水市	死亡野鳥	マナヅル	—	1	簡易陽性	12/19	H5亜型	H5亜型高病原性	12/19	H5N1亜型高病原性	12/19	2/3予定 (野鳥95例目と重複)
87例目	12/17	北海道	27例目	えりも町	死亡野鳥	ハシブトガラス	—	1	簡易陽性	12/17	H5亜型	H5亜型高病原性	12/25	H5N1亜型高病原性	12/17	2/3予定 (野鳥・1/6えりも町疑い事例と重複)
88例目	12/20	北海道	28例目	広尾町	死亡野鳥	ハシブトガラス	—	1	簡易陽性	12/20	H5亜型	H5亜型高病原性	12/25	H5N1亜型高病原性	12/20	1/17予定
89例目	12/20	北海道	29例目	えりも町	死亡野鳥	ハシブトガラス	—	1	簡易陽性	12/23	H5亜型	H5亜型高病原性	12/27	H5N1亜型高病原性	12/23	2/3予定 (野鳥・1/6えりも町疑い事例と重複)
90例目	12/24	北海道	30例目	えりも町	死亡野鳥	ハシブトガラス	—	1	簡易陽性	12/24	H5亜型	H5亜型高病原性	1/5	H5N1亜型高病原性	12/24	2/3予定 (野鳥・1/6えりも町疑い事例と重複)

令和6（2024）年シーズンの野鳥の鳥インフルエンザ発生状況

野鳥国内 ○例目	回収日 採取日	場所			検体情報				簡易検査		遺伝子検査			最終判定	野鳥監視重点区域	
		都道府県	都道府県内 ○例目	市町村	検体の種類	種名	国内希少 野生動物種	陽性個体数	結果	結果判明日	HA亜型	病原性	結果判明日		指定日	解除日
91例目	12/25	高知県	1例目	安芸市	死亡野鳥	ノスリ	－	1	簡易陽性	12/25	H5亜型	H5亜型高病原性	1/5	H5N1亜型高病原性	12/25	1/22予定
92例目	12/26	岩手県	3例目	花巻市	死亡野鳥	ノスリ	－	1	簡易陽性	12/26	H5亜型	H5亜型高病原性	1/5	H5N1亜型高病原性	12/26	1/23予定
93例目	12/27	鹿児島県	39例目	曾於市	死亡野鳥	オオタカ	－	1	簡易陽性	12/27	H5亜型	H5亜型高病原性	1/7	H5N1亜型高病原性	12/27	1/24予定
94例目	1/6	埼玉県	2例目	東松山市	衰弱野鳥	オシドリ	－	1	簡易陽性	1/6	H5亜型	H5亜型高病原性	1/9	H5N1亜型高病原性	1/6	2/3予定
95例目	1/6	鹿児島県	40例目	出水市	環境試料（水）	－	－	10検体 （うち2検体で 検出）	－	－	H5亜型	H5亜型高病原性	1/11	H5N1亜型高病原性	1/11	2/3予定

千葉県銚子市における鳥インフルエンザ発生に係る災害派遣について

※ 数値等は全て速報値のため、
今後変更される可能性があります。

<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和7年1月11日（土）、千葉県銚子市に所在する採卵鶏の農場（約4.1万羽）において鳥インフルエンザの疑いが発生し、検査の結果、翌12日（日）、鳥インフルエンザ陽性が確定。 ○ 12日（日）1400、陸上自衛隊第1師団長（練馬・東京）は、千葉県知事から鶏の殺処分等の支援に係る災害派遣要請を受理。 ○ 同日1800より、陸上自衛隊高射学校（下志津・千葉）を主力とする隊員が殺処分等に係る支援を24時間態勢で実施予定。
<p>活動部隊</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 陸上自衛隊：高射学校（下志津・千葉）、需品学校（松戸・千葉）
<p>活動態勢</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 隊員約180名がローテーションにより、24時間態勢で実施。 ○ 約4.1万羽のうち、自衛隊は発生鶏舎及び隣接鶏舎の約1.2万羽を担当。
<p>活動内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鳥インフルエンザが発生した養鶏場における殺処分支援 等

位置関係

活動写真※イメージ

